

急性期診療棟の完成予想
図(産業医科大提供)



産業医科大に急性期診療棟

北九州 23年8月開院予定

北九州市八幡西区の産業医科大は、同大病院に緊急性が高い治療や手術などを行う「急性期診療棟」を建設する。2023年8月の開院予定。

新たな診療棟は、高齢化に伴う医療の需要増加に対応する高度急性期医療の中核を担う施設。鉄筋コンク

リート造りの5階建てで、延べ床面積は約2万2000

0平方メートル。手術をしながら

磁気共鳴画像(MRI)やコンピューター断層撮影法(CT)を使った検査ができる「ハイブリッド手術室」や、妊産婦や新生児への高度な医療が行える「総合周産期母子医療センター」などを備える。

同大で5月25日にあった安全祈願祭には、関係者ら約40人が出席。同大の生田正之理事長は「ハイレベルな医療技術を整え、地域医療をリードする病院として発展させたい」と述べた。

(掲載について読売新聞社許諾済、無断転載(コピー、スマートフォン等での撮影)禁止)